

みさかえの園だより

第10号 2011年1月

発行所

社会福祉法人 聖家族会

発行責任者 中山和子

編集 総合活動企画委員会

☎859-0167長崎県諫早市

小長井町遠竹2747-6

☎0957-34-4520

☎0957-34-4521

[年2回(7月/1月)発行]

みさかえの園創立五十周年を 目前にして思うこと

理事長 中山和子

今年五月一日がみさかえの園めぐみの家開園五十周年を迎えるにあたり、当初の経過を綴ってみました。

昭和二十四年十二月、聖母の騎士修道女会が小長井の地において創立されました。当修道会の創立は一言でいえば聖母マリアがお望みであったからだと言えます。

私たちの最初の仕事は、原爆戦災孤児の世話でありましたが、修道会創立十周年を迎えた時、記念の愛の事業として地域社会がもっとも必要としている福祉事業を始めたいと望み、県に相談したところ精神薄弱児(知的障害児)施設を勧められました。知恵の遅れた子供たちの為の施

設は、出来るだけ私たちの修道院の近くに建て、いざという時は全会員が駆けつけることが出来る、という事で現在の小長井の地にみさかえの園が始まりの産声をあげたのでした。

この施設の建設資金の調達は、私ども貧しい修道女会としては難しく、県より一年の返済期限付きで五百万円をお借りしその返済の為に修道女は東奔西走して募金活動をしました。社会の方々の温かなご協力、特に当時浦上天主堂の主任司祭であられた故中島万利神父様をはじめ婦人会の方々のご協力によるチャリティーショーの成功などにより当時の精神薄弱児施設「みさかえの園」、現在

の「めぐみの家」が無事に落成いたしました。これが当修道女会として最初の事業となりました。

小長井町においては、この施設のため町有地一、二七〇坪を無償で貸与や、又のちに設置された精神薄弱者更生施設のためにも町有林を払下げくださったりとそこご協力・ご援助に深い謝意を表すものであります。

当社会福祉法人の名称として「聖家族会」と名づけられた由来ですが、聖家族とはキリストを中心としてその御生母である聖母マリアと御養父である聖ヨゼフによって築かれている人類の家族の模範というべき愛に満ちた聖なる家族であります。この聖なる家族の敬神、祈り、愛、平和一致、労働、忍耐、謙遜、奉仕などの精神を私たちの福祉事業の中に生

かすことが出来るよう、又聖家族のご三方イエス、マリア、ヨゼフの祝福がこの事業の上にもいつもありますようにとの願いをこめて法人名としたのでした。

このようにして「みさかえの園」は、現在五つの入所施設、つまり一つの知的障害児施設・二つの知的障害者更生施設・二つの重症心身障害児施設に広がり、障害者自立支援法制定後開設された在宅系事業として、居宅介護事業所・相談支援事業所・生活介護事業所・就労支援事業所・一体型共同介護事業所等地域社会が望む時代のニーズに必要な事業を少しずつ開拓し、これからも地域に喜ばれる事業所として支えあって共生出来る「安心・安全」な福祉の町づくり而努力していきたいと思っております。



聖家族 (イエス・キリスト、聖母マリア、聖ヨゼフ)

いのちとは何でしょうか。動きがあることです。普通には心臓が動いている限りのちがあると思われています。はかないことで心を動かしていれば、はかないいのちです。永遠のお方に向って心が動いているなら永遠のいのちです。(澤田神父さま)

主イエス・キリストは言われます「わたしに従う人は闇の中を歩むことなく、いのちの光をもつのです。」

めぐみの家、第二めぐみの家では神さまに戴いた大切ないのちをどのように生かしていきましょうかと、過ぎた一年をイエス・キリストさまの「あなたたちは天に宝を積みなさい」というみことばで生きることを目標に、永遠のいのちに向って、祈りの中で一日一日を大切に過ごさせていただき「そのすべてにありがとう」「そのいのちにありがとう」と感謝をこめて一年をしめくり、新しい年にいのちを繋ぎ、お一人お一人神さまの暖かい懷に包まれて精いっぱい自分に出来る事を行い、祈りを通して、みなさんが一つになつてキリストに繋がりますように努力いたしましょう。そしてその恵みが地域に日本国に全世界に広がりますように、満たされた社会となりますように、私たちの祈りで結び、永遠のお方に向って心を動かしていく事が出来まますようお祈り申し上げます。新年あけましておめでとうございます。

思い出を心の宝に

第二めぐみの家 生活支援員 中村 裕子

クリスマスと新年おめでとうございます。

最大の行事であるクリスマス。今回



湯江教会の馬小屋の前で歓迎され喜ぶ利用者達

のクリスマス会は、自己中心的な考えや、行動があたりまえのようになり殺伐とした寂しい現代社会に生きる人々に大切な

メッセージを与えてくれたクリスマス小冊子「みんなのハッピークリスマス」をテーマとして全員が一丸となりキャンドルサービス、聖歌、

ハンドベル、みんな一人ひとりの役

目を持ち光の踊り

を取り入れた聖劇

また、本部よりす

ばらしいピアノの

演奏の披露もあり

テーマである全員

参加で盛大にクリ

スマス会を楽しむ

ことができました。

クリスマス会を終えると一時帰省をされる方は家庭で新年を迎え、在園者の方は利用者の希望もあり馬小屋巡りを計画しました。

今回は湯江教会を始め、諫早教会、外海の波しぶきに感動しながら黒崎教会、出津教会、東長崎教会を巡りそれぞれのすばらしい馬小屋に感動され、また、東長崎教会ではクリスマス神父様との再会をかなえることができ、皆さん大喜びされていました。

新年を迎えると、家庭的な雰囲気の中で新年の挨拶を交わし、おせち料理をいただき、新年会、初売りのショッピングを楽しみました。利用者の方から「家に帰らんでも楽しかった」と思いがけない一言をいただき、楽しい思い出になってくれて良かったと共感できたことを嬉しく思います。

これからも活動を通して家庭的な雰囲気になしでも近づけるよう一人ひとりに惜しみない愛と奉仕の心を持ち利用者が望む生き方ができるよう支援して行ければと思っています。

施設とは、 地域移行とは、 地域で生きるとは、

園長 福田 雅文

新政権の障がい者総合福祉部会では脱施設化、施設は人権侵害であると論議されています。施設から地域へと障害を持った人たちの地域への移行が進められています。しかし、地域のなかで隔離されたグループホームであれば、施設が小さくなっただけのことであると思います。地域で生きるとは地域の住民に受け込み、地域の皆さんと共に生きることではないでしょうか。しかし、現代の地域社会では既に地域機能は崩壊の危機にあり、元気な住民ですら地域での交流が少なく、さらに一人暮らしのお年寄りの孤独死が急増しています。施設のイメージは地域から隔離され閉鎖された空間での生活のように思われています。しかし、私たちの求める施設は施設と地域の壁を取り除き、在宅の方も入所の方もお互いに家族を含めて交流を深め、施設自体が地域にとけ込み、地域の生活基盤を支える大事な役割があるように思われます。今年は地域とグループホーム、施設がどのようにすれば、支え合う成熟した新しい地域づくりが出来るのかを模索したいと思います。

今年もよろしくお願い致します。

外来部門総合発達 医療福祉センターと子どもたち

外来看護師 松下 二子

わせて、ミ今からお祈りにいくとよ、と聖堂も散歩コースに入っていて、マリア様のご像が、にこやかに微笑み見守ってくださっています。

総合発達外来の周囲には、B型通園・多機能型日中活動所・児童デイモデル・福祉相談室・各種リハビリ室が有り、毎日在宅の五十名近くの重い障がいをもたれた方々や、情緒障害、発達障害の方が何らかのかたちでこの、一階エリアを御利用になっています。

一昨年、超未熟児で国立病院の入退院を繰り返して酸素吸入をしながら毎朝登園しDrチェックを受け、通園を利用されていたY君は、母親・保育園・福祉相談室・行政・外来との連携で同年齢の子どもたちといる保育園に移り、今は元気にPT・STリハに来園されています。遅く少しづつ成長されている姿に関係者一同、会う毎に歓声をあげてよろこんでいます。

リハビリを受ける方も多くなり、



金魚にVサインを送る通園利用者D君

リハ前の診察も大繁盛です。担当の福田園長の一人ひとりの利用者さんを大切に見守っておられる愛と人間味あふれる診察も感動的です。もしも、済んだあとと小さな身体で深々とおじぎする、こどもの動作がかわいらしく思わず拍手喝采がおこることもあります。親御さんも大満足で、障がいをもたれた方々との小さな、和がむつみの家の活力源になっているのだと感じさせられます。

(4面へ続く)

(3面からの続き)

むつみの家の、和に一役買っているのは、玄関ホールの七匹の金魚さんと二匹のカメさんです。利用者さんは、目を輝かせて会うのを楽しみにされています。

昨年は、号外！号外！がありました。二匹ともオスと誤っていたカメさんに、なんと！卵が産まれたのです。もう誰もが、びっくり！仰天！話題沸騰でむつみの家全体を暖かい笑いに巻き込みました。営繕スタッフも巻き込んで立派なカメ遊歩道をつくってもらったり、卵の孵化自動温床器を設置してもらったりと、誰もかれも手を繋いで協力し、和やかな空間になっています。

「まだですか、今度診察に来たときは、赤ちゃんカメになっているかな」と親御さんも利用者さんも楽しみに待っておられました。大事に大事に四か月程観察しましたが、孵化できずに結局、残念でした。でも、誰の心にも温かな、ほのかな希望と楽しみ、元気をもらったから卵ちゃんの役目は果たしたのだと思います。



利用者を愛情深く見守られる福田園長

の新年を迎え、年毎に大きく発展してきています。予約状況も満杯です。佐世保総合病院、県外の大学病院長崎医療センター等々、公立の大きな病院からの紹介も多く、遠方より来園くださっています。遺伝子相談等々の、より専門分野ですが最新の情報とデータを基に懇切丁寧な診察内容に親御さん方の信頼を一心に集めておられます。

重い障がいをもって誕生される赤ちゃん、この大切な赤ちゃんを神様からゆだねられた親御さん、なかには離婚され生活に疲れ、心身ともに困難な状況にあられる方々も多くいらっしゃいます。

今年も外来を通して、福祉相談室・リハ・各関係部署と連携してマリア様のお導きのもとに可能な限り障がいをもつ子どもさんとそのご家族に寄り添い支えていけるように地域に根ざした働きを模索していきたいと思っています。

平成三十二年度

みさかえの園 総合防災訓練



去る九月二十九日に諫早消防署の協力を得て、みさかえの園総合防災訓練があゆみの家を主体として行われました。

今年度は地震による災害を想定し、総合対策本部の設置、各施設避難訓練、救護所の設置、負傷者のトリアージ、ナースによる応急処置、地震後火災発生に伴った初期消火、動力ポンプでの消火訓練を実施しました。

消防署の総評の中で、みさかえの園の立地として大規模災害時には救急車などはまず来ないと考え、自分たちの身は自分たちで守らなければいけないという意識をもたなければならぬと言われておりました。長崎県民は地震に対する意識の低さが問題であり、この訓練を機に全職員が備えを確認する必要があるようです。

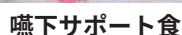


各施設とも地震・火災に対する意識をさらに高め、今後も一人の死傷者も出さないように訓練を行っていきたいと思います。

今年がみさかえの園の利用者や関わるすべての人々にとって、良い年であることを願っています。

栄養科一同

ルーキー達には初めての仕事と、今まで接したことのない利用者の食



今後も栄養科一丸となり利用者にも喜んでいただける、安全、安心な食事を提供できるよう頑張っていきたいと思います。

みさかえヘルパー
ステーションひびき

「「この道を救急車に伝えることができるか・・・」という利用者様の一言でヘルパー全員「できない・・・」事にきづかされました。ヘルパーは在宅でまた、移動支援などで日々お世話をさせていただいておりますが「今、緊急事態になったら何をどうしたらよいのか」一応緊急マニュアルはあるものの「救急車に伝える」ことのむづかしさ・・・この利用者様の一言がなかったらインターネットを確認し現地に走って再度自分の目で確認して地図を仕上げることもなかったでしょう。おかげさまで人に道を尋ねられたときは簡単明瞭にポイントを伝えられるようになって・・・と自分で感動しているところですよ。新規の利用者様も少しずつ増えていきます。道をまちがえないように今日もヘルパーは元気に走っています。」



新年に毒せて

園長 木村 トミ

新年おめでとうございます。

「あたらしい年 ともに生きる喜びを」というカレンダーの標語が私の目に入りました。

のぞみの家も移行する時期が近づいてきました。障害者自立支援法にそつて、のぞみの家の事業として、平成二十四年の一月から、日中活動を生生活介護とし、夜間支援を施設入所支援としていきます。また就労系の障害福祉サービスを社会福祉法人聖家族会が準備段階に入つた処です。施設として、皆様が、安心し、安定した生活ができるように願つて参りました。ご自分の生活の場が今までと違ふ利用者の方も出て参りますが、どこで生活されようと、ともに生きる場所だと私は思っています。これから、心一つにして、皆でともに頑張つて参りましょう。

神様も必ずやお力添えしてくださると思います。

「神は そのひとり子をお与えに なつたほどに世を愛された」

のぞみの家 生活支援員 下田 千鶴

去る十二月二十五日、主の御降誕をお祝いするパーティーが喜びのうちに終わりました。利用者全員が同じ時間を過ごすこと、利用者と職員がテーブルを囲んで会話をしながら食事をするという機会が減つたこともあり、とても貴重なひとときでした。

私たちは待降節を過ぎつつ、



ユニークなサンタクロースとトナカイのクリスマスプレゼント

パーティーの準備を進めました。メニューに関しては、栄養士が利用者にアンケートを行つてできる限りの好みの物が並ぶようにと。

雰囲気作りの為にステージの壁面装飾、そしてアトラクションの企画も楽しくする為悩みました。支援員が全員揃うことは難しく、練習時間も作れないまま。それでも、とにかく楽しんで頂きたく、ハンドベルの演奏や有志によるパネルシアター等を強行企画したのです。

当日は、利用者のカラオケ、生オケで賑い、ユニークなサンタクロースとトナカイの登場で大盛りあがりだったという事です。

もちろん、支援員の出し物も、皆さん喜んでくださったようでした。

幼稚園イエス様がいつも私たちのの中にいて、私たちが平和な心で神さまの働き手となれますように。利用者の喜び、幸せのための道具となれますように。マリア様、私たちのために祈りください。

お知らせ

今年5月1日、「みさかえの園めぐみの家」が開園50周年を迎えます。

毎年行われていた「みさかえ祭」を今年は5月1日（日曜日）に行う予定になりました。当日はオープニングセレモニーとして、全施設が児童公園に集合し開会式、地域の方々への感謝をこめて各施設の催し物などを予定しております。

そのため左記の委員会が昨年7月より設けられ、現在月1回の会合を実施し、準備を進めております。どしどしご意見をお寄せ下さい。

○みさかえの園創立50周年記念行事委員会メンバー

委員長：法人事務局 長 辻 芳郎
委員：めぐみの家 中村 真一郎

第二めぐみの家 山口 美代子
のぞみの家 奥野 貴実子
むつみの家 今川 洋子

あゆみの家 月元 貴美子
山崎 圭子

法人事務局 廣沢 光恵
あゆみの家 廣沢 光恵

○みさかえの園創立50周年記念誌委員会メンバー

委員：めぐみの家 中村 真一郎
第二めぐみの家 山口 美代子

のぞみの家 永川 鈴子
むつみの家 井上 裕見

あゆみの家 山下 孝子
あゆみの家 藤江 智志

法人事務局 野田 良子
あゆみの家 濱根 九十九

○みさかえの園事業再編成プロジェクトチーム

むつみの家 福祉部長 山崎 圭子（法人コーディネーター）
のぞみの家 事務員 繁春（一）

めぐみの家 副園長 中田 ソイ
第二めぐみの家 生活支援員 山口 美代子

あゆみの家 福祉課長 月元 貴美子
法人事務局 事務局長 藤江 智志

法人事務局 事務局長 廣沢 光恵

デイスペース『あん』活動報告

あけましておめでとうございます。

駆け出しの一年目、見えてきた二年目、基盤整備の三年目とアッという間に過ぎ去ろうとしています。障害者自立支援法の施行に伴い誕生した「デイスペースあん」多機能型日中活動所として登録者は約40名に達しました。在宅生活を地域で側面からサポートする役割は、果たせているでしょうか。日々、色々な出来事に対応できる柔軟な心と知識を求められています。今後も「あん」のモットー安心・安全・安堵の「あん」あんこの「あん」のように地域の真ん中でと初心に返り更なる事業所作りを皆様と共に目指していきたいと思います。今年は、飛躍の年になりそうだとか…（門脇直子）

デイスペースあん22年度トピックス

- ① 4月生活訓練から就労移行支援へ事業体系移行（定員6名）
- ② 4月グループホーム・ケアホームりん開設に伴い入居（5名）
- ③ 5月2日(日)「むつみの家みさかえまつり」にて喫茶・売店コーナー担当
- ④ 6月・9月特別支援学校より職場体験実習生の受け入れ（1名）
- ⑤ 6月17日(木)就労移行支援事業所内にて研修を受講
- ⑥ 7月24日(土)「わくわくふれあいフェスタ」参加
- ⑦ 8月18日(水)仲間（生活介護）が53歳で永眠
- ⑧ 8月26日(木)「むつみの家夏祭り」にて喫茶・売店コーナー担当
- ⑨ 9月16日(木)「あんミニレクリエーション」開催
- ⑩ 10月特別支援学校より社会体験実習生の受け入れ（3名）
- ⑪ 10月就労移行支援「むつみの家」クリーニング業務請負（ナフキン全般）
- ⑫ 売店にて月曜日新規パン販売開始
- ⑬ 11月3日(水)「むつみの家一斉面会」にて喫茶・売店コーナー担当
- ⑭ 11月6日(土)「ふれあいと交流の集い」参加
- ⑮ 11月13日(土)「あゆみの家文化祭」作品出展
- ⑯ 12月22日(水)「あん・通園合同クリスマス会」開催
- ⑰ 12月28日(火)「むつみの家もちつき大会」参加
- ⑱ 1月22・23日(土・日)「小長井町とれたて市」参加
- ⑲ 2月「心の花展」作品出展及び見学予定
- ⑳ 就労移行支援として初工賃支給



⑪ クリーニング業務

1日約2000枚仕上げています
丁寧に、迅速に！



⑮ もちつき大会

ぺったん、ぺったん
おいしかったなあ！



⑮ クリスマス会

楽しい1日でした。バニーガール？



新年あけましておめでとうございます

スマイルサポート

相談支援専門員 池本 雄亮

平成18年10月より設立されたスマイルサポートも5年目を迎えることになりました。様々な業務と兼務しつつ、日々相談業務に従事しています。

近年障害者福祉制度が目まぐるしく変化していますが、昨年1月から始まった「障害者制度改革推進会議」による議論を受け、障害者施策全般に制度改革が図られています。そして平成25年までにスタートする「障害者総合福祉法（仮称）」施行に向けて、今現在も着々と準備が行われています。

そういった中、法人内でも来年度からグループホームや児童デイサービスといった新しい事業が始まるうとしています。新事業設立に伴い、今後も様々な相談ニーズが上がることも考えられます。フォローが必要なものや行政や事業所等と連携しあい地域や人をつなぐ支援者として、まだまだ未熟ですが一人ひとりのニーズに沿った支援が出来ればと思っています。

グループホーム・ケアホームりん「ゆめハウス」

サービス管理責任者 徳久伸一郎

平成22年4月より開所しました、「ゆめハウス」も無事お正月を迎えることができました。これもひとえに関係者の方々、地域のみなさん、そして皆様のお恵みだと感じている次第です。開所当時は入居者のみなさん、スタッフ共々、緊張の連続で毎日四苦八苦していましたが、今では新しい生活に慣れてこられたようです。

リビングのテレビが壊れてテレビが見れなかったり、トイレのドアが壊れたり、はたまた初めて経験する防災訓練では、大きな音にびっくりして涙を流されるなど一年未満の生活の中でいろんな出来事がありました。また一方、ヘルパーと介護タクシーを利用して毎月の買い物や誕生会や家族の面会など楽しいことも増えてきたようです。また、来年度は「ゆめハウス」に続くホームも検討中ということで、多くの方が、不安と期待を胸に新しい生活を迎えられることになりそうです。今後とも関係事業所はもとより、地域の方のご協力をお願いします。

各施設の住所

ホームページ <http://www.misakae.or.jp/>

○めぐみの家・第二めぐみの家
☎859-0167 ☎0957-34-3112
長崎県諫早市小長井町遠竹2727-10

♣みさかえの園サテライトセンター
☎859-0164 長崎県諫早市小長井町牧272-2

○むつみの家
☎859-0164 ☎0957-34-3113
長崎県諫早市小長井町牧570-1

○総合相談室
○相談支援事業所スマイルサポート
☎・Fax 0957-34-9700

○のぞみの家
☎859-0167 ☎0957-34-3114
長崎県諫早市小長井町遠竹2727-11

○みさかえヘルパーステーションひびき
☎0957-34-3230・Fax 0957-34-3240

○あゆみの家
☎859-0167 ☎0957-34-3115
長崎県諫早市小長井町遠竹2727-3

○グループホーム・ケアホームりん
☎・Fax 0957-34-3200

○法人事務局
☎859-0167 ☎0957-34-4520
長崎県諫早市小長井町遠竹2747-6

○デイスぺース『あん』生活介護・就労移行支援
☎・Fax 0957-34-9700（総合相談室共有）

編集後記 年度末も目前に迫っており、何となく落ち着かない雰囲気が漂う時期となりました。今年のお正月から大雪となり、この1月にも何回か心配と不安を抱かせるような雪が降りました。でも先日不思議な事に長崎市・諫早市が大雪でしたが、小長井の丘みさかえの園がまるで別世界のような天候でした。当日出勤された職員は「何これ」と思われたことでしょう。
平成23年はどんな年に？ 少々心配になってきましたが、来る5月1日はみさかえの園にとって大変貴重な日、創立50周年に当たります。職員の皆様どうぞこの1年間で貴重な年として又記念の年として「みさかえの園」を一層盛り上げていきませんか。